

闘魂

1 学年進路通信 1号

2024年4月26日

西高に入って、3週間が経過しました。学校にはもう慣れましたか？今日で高校生として過ごす時間1095日のうち18日が過ぎ、まだまだ先は長いように感じられるでしょう。しかし、実は高校の授業日数は約580日しかありません。思ったより、残りの授業日数は少ないということに気づくと思います。進路指導部では1年次学年向けに進路日より「Fighting Spirits」を発刊することにしました。このタイトルは、プロレスラー故アントニオ猪木氏が常に体現されてきた言葉です。どんな困難に対しても挑戦し続ける姿勢を表します。京セラの創業者稲盛和夫氏が今の日本に必要なのは「負けてたまるか」という強い思い、いわば「燃える闘魂」である。これは稲盛氏が提言する経営12か条の8番目に掲げられています。西高の校是にある「天下第一関」は、挑戦することを表しています。西高生としてどんなことにもチャレンジし、「自分自身に負けてたまるか」という強い思いをもって欲しいと思いこのタイトルにしました。本校の多くの諸先輩方が校是「天下第一関」を実践され国内外の各方面で活躍されているのに続き、君たちにも輝かしい歴史と伝統の継承者として大きな志を抱き、高い理想や目標を掲げ、仲間と共に切磋琢磨して欲しいと考えています。それが高いレベルで実践できれば大学受験に向けて、何も恐れる必要はありません。授業や部活動、生徒会活動、地域貢献、ボランティア活動、読書などに集中し、タイムマネジメント力を発揮し自律することで十分に対応できます。どうぞ、今まで以上に授業を大事にし、存分に部活動などの特別活動に取り組み心身を鍛え上げて下さい。本校には君たちがそれを実現する環境が十分に整っていることを保障いたします。

では、まずはこれを常に心に留めて生活して下さい。

何事も『凡事徹底』から始まる

- (1) 遅刻をしない
- (2) 挨拶をする
- (3) 授業に集中する
- (4) 掃除をする
- (5) 学校行事に積極的に参加する
- (6) 部活動・特別活動をやり遂げる

当たり前のことが
当たり前にできる人でなければ
難しいことはできません

当然ですが、これは卒業するまでのミッションです。是非、メリハリのある時間を過ごして欲しいと願っています。特に目の前に近づいているゴールデンウィーク中は自分自身で1日の時間 $60分 \times 24時間 = 1440分$ をセルフコントロールすることが要求されます。それは自己管理能力を高める絶好のチャンスでもあるわけです。ここでの時間の使い方が上手いか下手かで今後の高校生活の充実度が変わってきます。きちんとした生活習慣や学習習慣がまだ身につけていない生徒には大きなピンチと言えますが、これから身につけるチャンスでもあります。そこで、ゴールデンウィークを迎えるにあたり、6点以外をお願いをしたいと思います。

詳細は、裏面に書いてあります。

[1] 西高生としての学習スタイルを完成させる

この期間は中学までの学習スタイルから西高生としての学習スタイルへの転換を完成させる時期です。これは、指示された通りに勉強するスタイルから、高校生として自分で計画を立てて、主体的に勉強するスタイルへの転換です。例えば、数学で言うと、一つの正解を得て満足するのではなく、他の視点から正解を得ることができないかを考えること、つまりM A N I A (別解)について考えてみようとするのですが大切な学習姿勢です。与えられた課題を終わりさえすればよいというのではなく、それに加え、自分にどんな力が不足しているかを考えながら課題を設定し、学ぶのが「これから伸びていくために必要な」学習スタイルです。定期考査対策も同様です。これまでの学習の多くは、それほど抽象度が高くなかったと思われかもしれませんが、ここから徐々に抽象度が上がります。進度も速くなる中で「自分に必要な勉強を主体的に考える力」は今後ますます必要になり、高校生としての学習スタイルを完成させるということが大変重要です。

[2] 起床・就寝・家庭学習開始の時間を固定する→時間管理をしっかりやる！！

この期間に身につけておきたいのは、生活を自分でコントロールすることです。少なくとも、起床・就寝・家庭学習開始の時間は、一人一人が自分の意志で決定することができる時間です。1日の時間をコントロールできるようになることは、自分で課題を見つけ、計画的に学ぶ真の高校生になるための第一歩。特に朝食は休日も含めて毎日「朝」のうちにしっかり食べる。学習はなるべく早い時間に始めることなども意識して下さい。

[3] 読書の時間を確保する

スマホの普及により高校生のインターネットやソーシャルメディアの利用時間は1日平均1時間以上。

利用時間を捻出するために犠牲になるのは、睡眠・学習時間、そして読書時間であるという調査結果があります。高校生の時期は言語能力を高める時期です。特に心がけて欲しいことが『新書を読む時間の確保』です。新書の論理展開を追うことで論理的思考力が養われ、著者の見解に対して自分の見解を持つことで批判的思考力が養成されます。新書を読むことを通して、様々な分野の基礎知識、論理的思考力など課題解決の基礎となる力が身につきます。また、社会的課題に関心をもち、自己の進路を考えるきっかけにもなるはず。 (文責 森本)



読書